

八丈島

登山地：八丈富士(西山)、三原山(東山)

目的：山頂で海を見る

日程：平成 27 年 12 月 26 日～30 日（山行 27 日、28 日）

人員：石津

12 月 26 日(土) 晴れ

冬休みを利用して以前から暖めていた離島での山登りに出かけた。

八丈島は東京から南へ 290km、伊豆諸島最南端、四国の室戸岬とほぼ同緯度で、西に八丈富士、東に三原山のふたつの山に抱かれた島である。八丈空港を出て目の前に八丈富士が聳えている。標高 854.3m このまま歩いても登れそうな高さである。空港からキダチアロエやハイビスカスの花が咲く空港道路を 20 分歩いて宿に入った。



道路沿いのハイビスカス

12 月 27 日(日) 晴れ時々曇り

八丈富士は標高 500m 程の鉢巻き道路まで車で上れるが、それでは島での登山の意味がない。前日、宿から買い出しを兼ねて海岸まで片道 1.5km 歩き海拔 0m からのスタートとした。

宿から鉢巻き道路へ続く林道(富士山横断線)を歩き始める。林道は一車線の幅はあるが、一部未舗装で溶岩の砂利道となっている所がある。道端の樹林は照葉樹のスタジイやヤブツバキ、タブノキなどが茂り、足下にはハチジョウカグマ(シダ類)やツワブキの葉や花が生い茂っている。本州の山とは違った亜熱帯に近い植生が見られる。



富士山横断道



山頂が常に見える

標高 370m 付近で富士山登山道に合流し、ここから登山口まで車道の登りとなる。ご本家の富士山同様に山頂が常に見える。

鉢巻き道路に出てしばらく歩くと、登山者の車が 10 台ほど駐車していた。ここまで誰にも会わなかったが登山者いることがわかりほっとした。ノヤギよけのゲートを開け登山道に入る。登山道は階段状に整備されていて歩きやすい。八丈島は野生化したヤギが増え続け、牧草や農作物被害が深刻化しているとのこと。ノヤギには遭遇しなかった。



ノヤギよけゲート



お鉢巡りの分岐点

登山口から 40 分で火口内が見渡せるお鉢の縁に到着し、反時計回りにお鉢巡りをした。左側の火口は 100m 以上深く口を開け、右側は海まで見渡せる斜面となっていて強風で耐風姿勢を取りながら進んだ。足下も溶岩の斜面とイヌツゲに足を取られ安定せず歩き難かった。1/3 ほど廻ったところで雲海に浮かぶ山のごとく八丈小島が見えてきた。風が強くてカメラを支えられなく地面に座り込んでシャッターを切った。雲は多いものの眼下の海と八丈小島、遠くに三宅島を見ることができ大満足であった。



お鉢を巡る、八丈小島が見えてきた



雲海に浮かぶ山のごとき八丈小島

4/5 ほど廻って 854.3m の山頂を越え、お鉢巡り分岐点へ戻った。分岐点から火口の中へ 10 分降りて浅間神社に参拝し、その後藪の中を進んで中央火口を目指したが、イヌツゲが密生していて突破できず断念した。帰りは火口の縁まで登り返して往路を下山し、宿までの長い道を歩いて帰った。



中央が山頂 854.3m



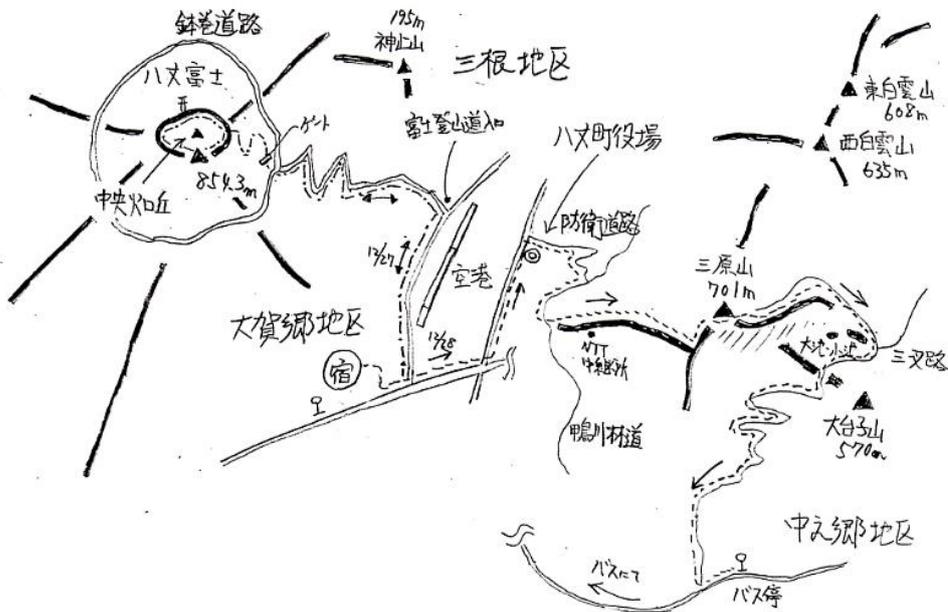
中央火口に点在する池

〈コースタイム〉

宿泊地(9:00)→富士山横断道→富士山登山道合流(10:16)→八丈富士登山口ゲート(10:44)
→お鉢巡り分岐点(11:27)→山頂 854.3m(12:06)→お鉢巡り分岐点(12:25)→浅間神社
(12:31)→中央火口付近(12:49)→お鉢巡り分岐点(13:00)→登山口ゲート(13:31)→宿泊地
(16:00)



八丈島全体地図(外周概ね 50km・★が宿泊地)



12月28日(月) 晴れ時々曇り

今日は西山(八丈富士)と対峙する東山(三原山)700.9mを目指す。昨日の八丈富士は往復7時間要したが、今日の三原山は標高が低くても移動距離が長く、さらに長時間が予想される。宿から八丈町役場近くの防衛道路入口まで2.5km、ここが町からの登山口となり、舗装された薄暗い道をくねくねと標高を上げる。標高360m付近で三原山に向かう林道に入りNTTの無線中継所に着く。ここが三原山登山口となり、登山客の車が3台駐車していた。コンクリートの階段をしばらく登り、山頂からの尾根にぶつかって北西方向に向きを変え電波塔のある山頂が見える。



NTT無線中継所登山口、正面が八丈富士



三原山山頂が見える

山頂には電波塔と山頂を示す石柱があるのみ。登山口駐車場からわずか一時間で着いてしまった。山頂からは南側に青ヶ島が見えるはずであるが雲が多く見えなかった。山頂の東側は電波塔へ続く車道となっており、下りはだらだらと車道を歩き伊豆諸島の固有種であるハチジョウアザミやヤブツバキの花を見ながら、南側の檜立の集落に下山した。



新島以南の伊豆諸島固有種 八丈薊



ヤブツバキ

檜立の集落からは一日3本のバスには乗れず7kmあまりの道のりを歩いて帰った。道路脇には500m毎に地点標が立っていて観光地図とあわせることにより現在地が把握できて便利であった。



地点標No.9 ゴミ箱の「ちよんこめ」は子牛の意味



宿までの長い道のり(大坂トンネル出口付近)

〈コースタイム〉

宿泊地(9:00)→防衛道路入口(9:30)→NTT 無線中継局(10:40)→三原山(11:30)→檜立集落(14:30)→宿泊地(16:40)



八重根港から八丈小島



ホテルの庭から



島寿司 (漬けのネタに洋カラシ)



大坂トンネル出口付近から



大里地区の玉石垣



南原千畳岩海岸から八丈小島



八丈小島 望遠で撮影





登龍峠から



末吉みはらしの湯から



八丈空港と三根地区



アシタバの畑

島での5日間は天候の大きな崩も無く、存分に島の山旅を満喫できた。山の規模は小さいため日帰り山行の繰り返しとなったが、海拔0mから歩くことにより標高は低くても十分に歩きを楽しめた。八丈島は海釣りで来島する人が圧倒的に多いが、八丈富士には登山者も多く、それなりに山登りの対象となっているようだ。今回は調査不足で八丈小島には行けなかったが、現地での情報収集により釣り船で渡れることがわかった。機会があれば是非「太平山617m」へ登頂してみたい。

(石津 記)